

## 5-10 分子科学研究所所長招聘会議

分子科学研究所 所長招聘会議は、我が国の学術の姿、研究力強化、大学及び共同研究機関の変容と変革、大学院教育戦略・国際化、科学政策・評価などについて産官学の意見・考えを基に多角的統括的に討議することを目的に、2001年からはほぼ1年に1回の頻度で開催されている。日本学術会議 化学委員会、日本化学会 戦略企画委員会と分子科学研究所の共同主催として開催され、日本学術会議 化学委員会の主要活動の一つに位置づけられている。分子科学研究所は運営事務局として参画する。

ここ数年は初夏の頃に本会議を開催しており、2020年度は、「光り輝く博士課程卒業生」というタイトルで、わが国の学術および産業界での研究力推進において博士課程修了者が果たす役割について議論を行った。日本学術会議 化学委員会でも世界におけるわが国の研究力低下の問題に対する解決策を検討される中、本会議では6名の講師を招き、企業で活躍する博士の存在意義を実績データ・事例の紹介を基に検討し、その重要性を再認識した。さらに、国際的観点から博士の重要性、国力・研究力の維持向上等、技術立国日本の近未来への指針について議論した。

なお、2020年度は COVID-19 感染の深刻な状況に鑑み、WEB による公開シンポジウムとして開催したところ、全国から 103 名の参加者があった。

開催テーマ：「光り輝く博士課程卒業生」

開催日時：2020年6月3日 13時～17時

プログラム：

挨拶 川合真紀（分子科学研究所 所長）

報告 加藤昌子（日本学術会議化学委員会 委員長，北海道大学 教授）

講演

趣旨説明

「博士課程の目指すこと・その評価、中国の2020年改革に学ぶこと」

中村栄一（東京大学 特別教授）

「若手研究者の活性化に向けて：CSTIの施策を中心に」

橋本和仁（物質・材料研究機構 理事長）

「博士課程卒業生への期待」

小林喜光（三菱ケミカルホールディングス 会長）

「データからみる日本の博士人材の現状と課題」

磯谷桂介（文部科学省科学技術・学術政策研究所（NISTEP）所長）

「企業での経験と今の自分」

草本哲郎（分子科学研究所 准教授）

「化学分野での博士の活躍状況、博士課程で学んで欲しいこと」

長瀬公一（東レ経営研究所 特別研究員）

総合討論

共催：日本学術会議 化学委員会，日本化学会 戦略企画委員会，分子科学研究所

運営事務局：分子科学研究所（岡本裕巳 教授）